

東京都区現代俳句協会会報

発行人 青木 栄子
発行所 東京都区現代俳句協会
〒116-0014 荒川区東日暮里3-34-10
山本 敏倅
TEL-FAX 03-3801-1656

創立三十五周年記念俳句大会に向けて

事務局長 青木 栄子

三十周年という大きな節目の記念大会を、ついでこの間終えたと思っておりましたが早いもので、「創立三十五周年記念俳句大会」を平成三十年五月二十六日(土)文京シビックセンタースカイホールにて開催する運びとなりました。すでに会報でお知らせの通り、松澤雅世実行委員長を筆頭に、記念事業はスタートいたしました。企画は次の通りです。

- 一、合同句集刊行
- 二、記念俳句大会作品募集
- 三、東京都区現代俳句協会賞
- 四、祝賀大会 *記念講演 宮坂静生先生
*入賞者発表
- 五、祝賀会

合同句集につきましてはすでに一八七名のご参加を得て、早くも著者校正に進んでおります。平成八年に地域を七プロロックに分け、きめの細かい活動を展開しておりますが、この数年会員の減少(高齢化)、吟行会場の確保の難しさ等から、平成二十四年に四プロロックに再編成致しました。各プロロックが以前にも増して個性ある活動をしております。

そのような中で創立三十五周年記念俳句大会の作品募集は一千組二千句を目標としております。また協会賞につきまは新作未発表二十句となっております。積極的にご応募下さいませよう、会員皆様のご協力をお願い致します。記念事業基金につきましては、すでに多くの方々のご支援ご賛同を得ましたこと、御礼申し上げます。引き続き基金募集は続いております。宜しくお願い申し上げます。

東京都区現代俳句協会

創立三十五周年記念俳句大会

期 日 平成30年 5月26日 (土) 午後2時より
場 所 文京シビックセンタースカイホール
☎03-5390-1122
記念講演 講演 現代俳句協会会長
「岳」主宰 宮坂静生先生
演題 (未定)
講 評 長峰竹芳常任顧問ほか

東京都区現代俳句協会創立35周年記念俳句大会

作品募集

俳句大会作品

□募集規定 二句一組 一、〇〇〇円

何組でも可・新作未発表作品に限る
前書き不可・所定用紙または二〇〇
字詰原稿用紙使用。住所、姓号明記
出句料は出句と同時に納金する。

●会員外の投句歓迎

□送り先 千一四六〇〇八五 東京都江東区
豊洲五三二五一一〇四 栗原節子方
都区協三十五周年記念俳句大会係

□締切 平成三十年一月末日
当日消印有効

□大会日時 平成三十年五月二十六日
(土)

俳句大会 午後二時～五時まで
祝賀会 午後五時三十分～七時三十分

会費 六千円

□発表 都区協創立三十五周年記念祝
賀俳句大会席上、都区協「会報」。

□賞 現代俳句協会賞 都区現代俳句
協会賞 東京都知事賞 ふるさとテ
レビ賞 他得点一位より五十位まで

□講演 現代俳句協会会長・「岳」主宰
宮坂静生先生

演題 (未定)

(小為替の受取人欄は記入しないで下さい。)

★応募規定に違反した場合は、発表後でも入賞を取り消すことがあります。

東京都区現代俳句協会賞

□募集規定 二〇句

参加料二、〇〇〇円

新作未発表作品に限る

応募資格 都区協会員に限る

□入賞 一名 賞金五万円及び賞状

佳作 若干名 記念品及び賞状

□締切 平成三十年一月末日

当日消印有効

□発表 都区協創立三十五周年記念
祝賀俳句大会席上、都区協「会報」

□選考委員

長峰竹芳

松澤雅世 行川行人

松井国央 山中正己 佐怒賀正美

青木栄子 加藤光樹 加藤瑠璃子

中村和弘 大牧 広 松田ひろむ

鈴木 明 池田澄子

□送り先 千一七一一〇〇五一

東京都豊島区長崎一―九―一四

山中正己方

東京都区現代俳句協会協会賞係

東京都区現代俳句協会

創立三十五周年記念事業基金

募集のお願い

平成三十年に記念祝賀大会を開催いたします。

つきましては左記の通り基金を募集することになりましたので、会員各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

一口 一、〇〇〇円(何口でも結構です)

記念大会実行委員長 松澤 雅世

振込番号

00110・5・539619

加入者名 東京都区現代俳句協会

*同封の振替用紙をご使用願います。

郵便振替払込受領証にて領収書に代えさせていただきます。

基金担当 松澤 雅世

第五十回秋季吟行会・新入会員歓迎会

平成二十九年九月十六日(土) 上野グリーンパーク

恒例の秋季吟行会・新入会員歓迎会は台風の近づいて来る肌寒い日であった。新入会員四名を含む六十名の参加で盛大に挙行された。司会は青木栄子幹事長。松澤雅世都区協会長が歓迎の挨拶と長い間参加しているが、いつもは残暑厳しい日ばかり、肌寒い日は始めてと述懐。新会員の紹介を山本敏倅総務部長、登壇の四名に記念品の贈呈を山中正己副会長が行い、新会員が抱負を一人ずつ発表、暖かい拍手が贈られた。この後役員の紹介がなされた。この日の講話は松澤雅世会長の「紅葉と黄葉」。「もみつ」が万葉から新古今へと移って行く過程で平安期までに「もみぢ」と変わって行き、紅葉も黄葉ももみじとなつていった。紅葉と黄葉はそもそも発色の化学がまるで違うことなどを鋭い切り口で考察した。

恋ともちがふ紅葉の岸をともして 飯島 晴子
この樹登らば鬼女となるべし夕紅葉三橋 鷹女
この二句が好きである、と締め括られた。
清記表が配られ句会。披露は広田輝子、櫻



木美保子の兩名。選評は松澤会長はじめ特別選考。成績発表は小高沙羅事業部長。特別選者の短冊が授与され、上位三十位まで、豪華賞品が授与された。栗原節子副幹事長の閉会の辞で句会はお開き。
六時より懇親会。司会は今野龍二広報部長、佐怒賀正美副会長の挨拶、佐々木いつき顧問の乾杯の発声でしばしの歓談。

余興は恒例のビ
ング大会。山口紀
子組織部長、長谷
川はるか企画部長、
中内火星幹事、栗
原かつ代幹事、上
野貴子幹事の進行
で大きく盛り上が
り。松田貞男副幹
事長の閉会の挨拶
で散会となった。

《特別選者・特選句》

松澤 雅世 都区協会長 特選
九月の揺らぎことほとも尻尾とも 栗原 節子
渡邊 嘉幸 都区協顧問 特選
赤とんぼ子規の匂いのする森に小高 沙羅
松田ひろむ 都区協顧問 特選
Jアラートただ蓮の実が飛んだだけ 石口 榮
佐々木いつき 都区協顧問 特選
歓迎の声や上野の轡虫 小林貴美子
布施 徳子 都区協顧問 特選
物言はず秋思しているゴリラの目 古谷あやを
ダイゴ鉄哉 都区協監査 特選
蓮の実の飛んで一線越えられる 青木 栄子
田付 賢一 都区協監査 特選
たてがみの汚れ百獣の王の秋 鈴木 光子
佐怒賀正美 都区協副会長 特選
象を見た眼に曼珠沙華二輪かな 櫻木美保子
山中 正己 都区協副会長 特選
秋陰やカレー市民の鍵持つ手 水田千恵子
新入会員作品
鮭の目ぎよりアメ横は咲呵売 蓮尾 碩才
尻尾踏む夏の終りの長い影 日下部智香
りんどうの重ねた臉に雨一粒 宮永 武彦
曼珠沙華長き爪にて狙ひ撃ち 中川 枕流

《参加作品》

(高点順・30位以下順不同)

- 1 またあしたないかかも知れず蓮は美に 白石みずき
 2 すぐ拾われてどんぐりでいられない 石口 榮
 3 蓮の実百年先へ飛んでみる 小高 沙羅
 4 野分くる犀もキリンも耳立てて 長谷川はるか
 5 秋風の歩幅で上野徘徊す 古谷あやを
 6 草の花誰のものでもない言葉 西本 明未
 7 鳥たちの時間に入り込む秋思 佐怒賀正美
 8 考える人の背ごつごつの秋思 山口 紀子
 9 たてがみの汚れ百獣の王の秋 鈴木 光子
 10 破運負けた人生それもいい 水落 蘭女
 11 風向きに倒れし蓮の万の骨 佐々木いつき
 12 黒あげは発たせて冥きロダン門 山中 正己
 13 大役を終えて秋思のパパパンダ 相沢 幹代
 14 漠の鼻意外に長い秋うらら 五十嵐秀山



- 15 蓮の実の飛んで一線越えられる 青木 栄子
 16 涼新た西郷どんの目に力 松本 秀紀
 17 蓮の実の飛んでも飛んでも池の中 櫻木美保子
 18 動かざる孤高のライオン秋思かな 江原 玲子
 19 蓮の実飛んで次の世へ橋かける 山本 敏倬
 20 苦笑するロダンの像に秋ふかむ 西前 千恵
 21 しろがねの水玉宿す秋の蓮 広田 輝子
 22 ハードルは親の背中よすいっちょん 栗原かつ代
 23 蓮の実の飛んでパンダに良い名前 石井 誠子
 24 秋の蝶大道芸の指の先 今野 龍二
 25 彼岸花しっかり燻焼いている ダイゴ鉄哉
 26 耳朶のうしろに溜まる秋思かな 渡邊 嘉幸
 27 鳥渡る子規の名残す野球場 千明 素子
 28 秋の空信じて生まる赤ん坊 田付 賢一
 29 歓迎の声や上野の轡虫 小林貴美子
 30 ジャズ流る酒場に集ふ敬老日 大山実知子
 ますらをの櫛のまはりの千草かな 石川登志子
 公園は秋色靴が軽くなる 石口りんご
 黒潮の波に値の飛ぶ初秋刀魚 上野 貴子
 小鳥来る上野の森の鐘の音 菱沼多美子
 雨かなあ蓮池見ればみづすまし 中川 枕流
 台風を真近に見据え皆遊ぶ 富塚 聡子
 弁天へ水の縁や月の松 石田 弥生
 やはらかきツイシユの手触り昼の虫 大橋 愛子

- 母の名は真真唐の霧育ち 松田ひろむ
 九月の揺らぎことばとも尻尾とも 栗原 節子
 葛の花揺れて日差しの定まれり 布施 徳子
 秋雲に不穩を睨む西郷どん 宮川 夏
 百歳の平均寿命雁渡る 小平 湖
 曼珠沙華盛んなる時みだれ髪 齋藤 藍
 どんぐりこボケットなんて浅すぎる 銚守 裕子
 鮭の目きよりアメ横は啖呵売 蓮尾 碩才





お山への射程距離なり蓮の実 松澤 雅世
 蓮の実を飛ばして脚下照顧かな 松田 貞男
 鐘鳴るや秋思をのぞく月の松 高橋 透水
 既視感か秋思かゴリラの前にいる 赤澤 敬子
 水掠め風になりきる秋の声 石垣 久良
 パンダの名心待ちにす竹の春 長尾 幸子
 蓮池の残の過密に秋の風 山崎 百花
 秋うららパンダの名前募集中 今村たかし
 尻尾踏む夏の終わりの長い影 日下部智香
 りんどうの重ねた臉に雨一粒 宮永 武彦
 秋陰やカレー市民の鍵持つ手 水田千恵子
 河馬の耳ほのほの台風注意報 古川 塔子
 鳩のフンよけて団栗踏んでいる 中内 火星
 蓮の茎かさわけ進む亀の足 中川溜々子
 (白石みずき・記)

創立三十五周年記念事業基金寄付者芳名

(八月三十一日分まで・敬称略・順不同)
 ご支援ご協力を深謝申し上げます。

- 三十一口 大平 星雲 松澤 雅世
 三十口 松田 貞男 鈴木 明 二村 博三
 二十口 長峰 竹芳 渡邊 嘉幸 小高 沙羅
 十口 吉田 健治 阿部 晶子 佐怒賀正美
 石山 正子 遊佐 光子 渡邊ささ子
 石井 英彦 中本 勝美 大坪 重治
 大牧 広 洪川 京子 青木 栄子
 林 暁兵 斎藤 藍 石垣 久良
 布施 徳子 山中 正己 今野 龍二
 赤木日出子 対馬 康子 柳瀬 亜湖
 山本 敏梓 鈴木 明 伊藤二三子
 赤城日出子 石井 長子 水落 蘭女
 五口 小檜山繁子 宇佐美ちゑ子 北村眞貴子
 長谷川はるか 圓山ふさこ 松本 秀紀
 関根 誠子 吉浜 青湖 當山 孝道
 高橋 透水 行川 行人 篠 貴美子
 加藤 光樹 上野 貴子 西本 明未
 大橋 愛子 石口 榮 石口りんご
- 菊地 雅子 赤澤 敬子 角田 晴俊
 栗原 節子 大山実知子 吉田 孝子
 石綿 久子 千明 素子 白石みずき
 宮崎 敦子 川名つぎお 山口 紀子
 佐藤洋子
- 三十一口 好井 由江 鈴木登代子
 平田 恒子 鈴木 光子 安田 淳子
 池田 澄子 桑田 真琴 河原 叔子
 鈴木 淳一 宮原 光女 倉持留美子
 加藤瑠璃子 速水 禰子 遠藤 久子
 栗田希代子 平林 孝子 高原 信子
 相沢 幹代 阿部 周二 鎌守 裕子
 上村ツネ子 鷲 ケイジ 古谷あやを
 三輪 初子 伊藤 淳子 次山 和子
 関 文子 石川 貞夫 穴澤 篤子
 山戸 則江 永島 靖子 小平 湖
 江原 玲子 白岩 絹子 畑乃 武子
 二口 磯部 薫子 中道 秀和
 すずき小柚子 内藤みのる 長谷川栄子
 寺町志津子 小林 幹彦 川西西舟女
 ダイゴ鉄哉 いまきいれ尚実 加藤千恵子
 宮川 夏 古谷あやを 渡部 愛子
 大橋 愛子 塚越 美子 棚橋 麗未
 一〇口 山地春眠子 渥美人和子
 田中いすず 大高 宏允 大高 洋子
 瀬川 紅司 平北ハジム 仲澤 輝子
 萬 悦子 吉田 慶子

Aブロック研修吟行会 平成二十九年五月二十九日(月)

於・北とびあ七階第一研修室飛鳥山公園・音無川親水公園・
名主の滝・王子稲荷・大蔵省造幣局その他

吟行日和に恵まれて王子近辺を三々五々の吟行。多くのみなさんは王子稲荷、庄屋の滝のコースを廻った後の会場入りとなった。別コースの方は飛鳥山公園でしばし童心に帰って童帰りを身を以て体験。音無親水公園かつて音無溪谷と呼ばれたこともあり、規模的に等々力溪谷には遠く及ばないが一見の価値あり。夏は水遊びの親子連れでにぎわっている。また王子駅前には大蔵省造幣局の広大な工場があり、お札と切手の博物館も併設されている。歴史的にも貴重な資料、機械など観覧することが出来る。吟行にはもってこいの王子駅近辺であった。名句も数多く生まれた。

句会は五十七名の参加で定刻一時の開催。

司会は今野龍二。鉄守裕子Aブロック長の挨拶。ダイゴ鉄哉監査、松田ひろむ顧問の祝辞と続いて、現代俳句協会幹事長前田弘先生の講話「破れかぶれ 現代俳句の集い考」。

現代俳句協会都区協創生期に存在した「現

代俳句の集い」で発表された句にスポットライトをあて逸話をふんだんに紹介しその歴史的名句を分析、解説。現代俳句の原点、真髓を読み解いた。歴史の現場に立ち会った前田先生ならではの貴重な講話であった。またこの機会があれば更に踏み込んだところなどを明らかにされる事を期待したい。

句会後は地下一階のキリンシテイにて二十四名の参加で、工場直送のキリン生ビールその他が飲み放題の懇親会、しばし会員の親睦を深めた。

《特別選者・特選句》

前田 弘 特選

狐穴出て日盛りの幼稚園 長谷川はるか

青木 栄子 特選

瀧音の今を飛びたい少年期 長久保通繪

栗原 節子 特選

回らない水車が欠伸 早川 佐々木いつき

ダイゴ鉄哉 特選

山滴の標高二十五米 栗原かつ代

松田ひろむ 特選

男滝落つ胸の水位にほど遠く 岡田 淑子

佐々木いつき 特選

下闇や殊に桜の賦の碑文 広田 輝子

鉄守 裕子 特選

緑陰のD51やつぱめんこいべ 前田 弘

《参加作品》

(高點三十句)

1 下闇に五人集えば共謀罪 金子 未完

2 狐より怖いにんげん七変化 長谷川はるか 一

3 七変化本音を言ってくれないか 石口りんご 一

4 電動の滝へ修羅修羅夏の蝶 佐藤 晏行

5 滝音や水に空ある小暗がり 青木 栄子

6 滝の前静かにはすすネックレス 松沢 貞津

7 しばらくは滝の匂いを持ち歩く 鉄守 裕子

8 滝しぶきあびてこの世に戻りけり 山本 敏偉

9 葉ざくらをさぶさぶ抜けて来しみんな 石井 長子

10 八十路いま女盛りや黒日傘 菅沼 葉二

11 滝しぶきませて男のカルパッチョ 相沢 幹代

12 万緑へ居座っている力石 北迫 正男

13 夏落葉ふるさと示す方位盤 栗原かつ代

14 若葉風いまくちびるがやわらかい 今野 龍二
 15 木下閨鯉と亀とがいい関係 石口 榮
 16 回らない水車が欠伸 早川 佐々木いつき
 17 緑陰のD51やっぱめんこいべ 前田 弘
 18 相席は紫陽花握り飯を食う 菱沼多美子
 19 万緑の世界へ二分アスカルゴ 山口 紀子
 20 水無月のそこきている鯉の口 佐々木克子
 21 瀧音の今を飛びたい 少年期 長久保通繪
 22 夏日濃し大きく曲がる荒川線 吉沢美佐枝
 23 あじさいは決してはみ出してはいない 前田 光枝
 24 薫風をレトロ電車が運び去る 石垣 久良
 25 みちのくへ新樹の高さを往く列車 広田 輝子
 26 戦いで滝しずかなる水となる 西本 明未
 27 すれ違いの夏もあつたね飛鳥山 岡田 淑子
 28 葛切やこんこん様が巫女になる 松田ひろむ
 29 七十の東の間滝と向いあう 赤澤 敬子
 30 佇づめば影のささめく若楓 大藪 智子
 (以下順不同)
 夏蝶の迷ひ乗りたる早稲田行 大山実知子
 否定からはじまっている街薄暑 栗原 節子
 喧噪を逃れ名主の滝しぶき 宮川 夏
 王子駅へ薔薇の道より都電来る 小林貴美子
 夏空へくぐらすバントワリング 五十嵐秀山

滝遊び女の子にも秘密基地 白石みずき
 多佳子忌のマイナスイオン効きどころ 小平 湖
 夏蝶の滝の落ち口高くする 保坂 末子
 黒揚羽あうん狐とたわむれる 松本 秀紀
 夏帽子みんなで作る遊びの輪 加藤千恵子
 臆月晴れ王子みやげの玉子焼 永井 良和
 化粧上手な王子の狐業平忌 北村真貴子
 更衣ちらつと稲荷のガードマン 神尾 久雄
 花は葉に無聊をかこつ観世音像 上野 英一
 無欲って最高飛鳥山登る 小高 沙羅
 蟬鳴くや江戸百景の飛鳥山 今村たかし
 名主滝木洩れ日に咲く苔の花 川西とみ子
 木下閨王子の狐こんちきちん 水落 蘭女
 緑風に乗せるローストビーフ手暗り
 あの人も滝に呼吸を合すだけ ダイゴ鉄哉
 男滝の前に立ち尽す女たち 栗田希代子
 卵焼くここが扇屋樟若葉 中内 火星
 青楓イロハ数える子のありて 是永 睦子
 中本 勝美
 かたつむりと都電かけつ飛鳥坂 小林 和子
 万緑に銀の翼の資料館 鈴木 光子
 結婚を願とし青葉の力石 笹木 弘
 新樹光江戸の老舗のたま焼 壁谷 瑠宇

第二十四回関東甲信越・静岡ブロック
連絡会議報告

日時 平成二十九年六月四・五日
場所 栃木県日光市鬼怒川温泉

毎年行われている近隣の十一地区協(東京都区・東京多摩・神奈川・千葉・埼玉・栃木・群馬・甲信・新潟・静岡)の連絡会議。現代俳句協会本部からは前田幹事長、後藤組織部長、水野事務局長。都区協からは栗原副幹事長、山本総務部長が参加した。定刻の一時より、栃木の和田会長の司会で会議が始まる。

まず各地区協の現況報告。その後、高齢化などによる協会員の減少を憂いながらも、増やすことも大切な事であるが、減らさない努力がそれ以上に大切ではないか、年会費の件では年金生活者にとっては少々きびしい、などの意見もあった。

創立七十周年記念、第五十四回現代俳句全国大会も迫っている。

十一月二十三日(木)全国大会です。

(栗原節子・記)

第十三回 高田馬場夏句会報告
 平成二十九年七月四日(火)
 兼題「手毬花」・席題「運」二十四名

都区協組織部の主催で年四回の句会を開催して早十三回目となった。都句協会員ならば誰でも参加できる。原則参加申し込みは必要だが当日直接会場でも受け付けします。どうぞ一度会場を覗いてみて下さい。名句が生まれ親睦の輪が生まれる高田馬場句会です。

組織部長 山口紀子

《高得点句》

悪運はすつぱり捨ててる星まつり 小高 沙羅
 大でまり忌明けの和紙の白さかな 赤澤 敬子
 運不運小出しに刻むへば胡瓜 棚橋 麗未
 手毬花雨の匂ひの女来る 近田 吉幸

《参加作品》(順不同)

この寺の姫様伝説手まり花 広田 輝子
 機嫌よき父の鼻歌大でまり 櫻木美保子
 歳聞かれいくつと言おうおおでまり 白石みずき
 幸運かも知れぬ睡蓮の眠るとき 相沢 幹代
 運命線握り雷雨になる兆し 松澤 雅世
 誰とでも話してしまふ手毬花 今野 龍二
 神宮の骸を運ぶ蟻の兵 栗原かつ代

朝顔市運よく手にす「団十郎」高橋 透水 梅雨空のベンチに置いてある運命 山本 敏倅 花てまり伸びては風にてんてまり 上野 貴子 泉より水平線を運び出す 西本 明未 透明な母の本能手毬花 青木 栄子 好き勝手毬花を吸うバリー祭 中内 火星 手毬花若き巡査の声はずむ 宮川 夏 大手毬小手毬バツサリ斬られ役 ダイゴ鉄哉 帰りしなふと目にとまる手毬花 上野 英一 粹という舟を運びぬ夏の川 北村眞貴子 木漏れ日をさなみにして手毬花 鎌守 裕子 子の足は三十センチ大でまり 山口 紀子 明日ありと思ふテマリバナ雨に濡れ 山中 正己 (山口 紀子 記)	日 時 平成三十年一月九日(火) 午後一時より 会費 千円
	高田馬場句会「新年」の御案内 場所 高田馬場駅南口F1ビル8階 (ドンキホーテのビル)

編集後記 九月十六日秋季吟行会・新入会員歓迎会も無事終わった。皆様のご協力に感謝する。新入会員十四名中参加は四名で、いささか寂しい。ほっと一息つく間もなく、これからは来年五月の都区協創立三十五周年に向ってまっしぐら。合同句集は佐賀賀正美統括のもとすでに印刷に回す状況にある。また記念俳句大会。協会賞の作品募集も始まっている。参加してこそその都区協である。さらに都区協創立三十五周年記念の基金も募集している、お願いはかりで恐縮であるが是非とも協力をお願いします。すでに納付された方も多数おられますが、再度の納付も受け付けております。全員で三十五周年事業を成功させましょう。	振替番号は左記のとおりです。 〇〇一〇一五―五三九六一九 東京都現代俳句協会
広報部・編集室 〒121-0813 足立区竹の塚一―二八―一七 今野 龍二方 TEL・FAX 〇三―三八五九―九三〇四 Eメール r.imano563@gmail.com	今野龍二